

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

| | |
|---------|----------------------|
| 事業所番号 | 3890101243 |
| 法人名 | 株式会社メディックス |
| 事業所名 | グループホーム パートナーハウスやまぶき |
| 所在地 | 松山市下伊台町1293番3 |
| 自己評価作成日 | 平成27年11月23日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|-------|---------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人JMACS |
| 所在地 | 愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501 |
| 訪問調査日 | 平成27年12月15日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域の季節行事の参加、施設内でレクや外出行事を毎月考え飽きのない生活支援を行っている。 ・床暖房により、冬でも足元から暖かい。 ・季節を肌で感じられる環境で、喧騒から離れゆっくりとした生活が送れる。 |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●開設前には、近所のお宅にあいさつうかがったり、自治会の寄り合い時には、法人や事業所の説明を行う等して理解を得られるよう取り組んだ。5月に中学校で地区の運動会が行われた際には、管理者が組の一員として参加し、近所の方達と一緒に競技に出た。10月の秋祭りにはみこし、11月には亥の子が来てくれた。運営推進会議時に、地域の方から「移動スーパーが来る日に地域の方も利用できるよう声かけしてはどうか」と提案があり、管理者は近所のお宅を廻って案内した。現在、2軒ほどのお宅の方が利用している。 ●毎月外出の予定を立てて、菊花展を見に行ったり、お寺参りに出かけたりしている。又、ユニットによっては、大型スーパーに出かけてフードコートでおやつを食べて帰るようなこともある。この一年間、利用者が生まれ育った場所に、複数の利用者で出かけてみることに力を入れて取り組んだ。利用者は喜ばれて、「こんなに変わったのか」と感想を話し、以前の様子等についても話してくれたようだ。 |
|---|

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当する項目に印 |
|----|---|--|----|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない |

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 パートナーハウスやまぶき

(ユニット名) あやめ

記入者(管理者)

氏名 権名津 太志

評価完了日 27年 11月 25日

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-----------------|------|--|---|-------------------------------|
| 理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | (自己評価) 副理念である「あるがままを笑顔で支えるの部分を意識して入居者対応しているが、時と場合によっては難しいときもある。 | |
| | | | (外部評価) 今年9月に法人介護事業所全体で基本理念を「幸せの追求」、スローガンを「あるがままを笑顔で支える 家族と共に仲間と共に 地域と共に」と作っており、事業所にも掲げている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | (自己評価) 季節行事などに参加して地域交流をはかっているが、日常とまではいかない。 | |
| | | | (外部評価) 開設前には、近所のお宅にあいさつにうかがったり、自治会の寄り合い時には、法人や事業所の説明を行う等して理解を得られるよう取り組んだ。5月に中学校で地区の運動会が行われた際には、管理者が組の一員として参加し、近所の方達と一緒に競技に出た。10月の秋祭りにはみこし、11月には亥の子が来てくれた。運営推進会議時に、地域の方から「移動スーパーが来る日に地域の方も利用できるよう声かけてはどうか」と提案があり、管理者は近所のお宅を廻って案内した。現在、2軒ほどのお宅の方が利用している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | (自己評価) 認知症介護の現場を家族様以外へお伝えすることは運営推進会議以外ではほぼない状態。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 4 | 3 | <p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>(自己評価) 2か月に1回の運営推進会議では行政、自治会の方々、近辺の他事業所、家族様へ参加していただき報告や勉強会、意見交換を行っており、意見交換では取り入れるべき指摘ももらいサービス向上につなげている。</p> <p>(外部評価) 会議には、自治会長や組長、民生委員や地区内の他地域密着型サービス事業所等、又、利用者やご家族2~3名、職員が参加している。事業所から、利用者や活動の状況報告を行い意見交換したり、「防災について」「口腔ケアについて」等、講師を招き勉強する時間を設けている。参加者からは、「自宅でも役に立つ」と感想がある。さらに今後は、運営推進会議に出られなかったご家族にも、会議内容等を報告して会議の取り組みを知ってもらってはどうか。</p> | |
| 5 | 4 | <p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p> | <p>(自己評価) 行政と日々直接やりとりする機会は少ないが、運営推進会議に参加していただく際は意見交換をしている。</p> <p>(外部評価) 地区内にある地域密着型サービス4事業所が自主的に集まり、連絡会を作っており、時には、地域包括支援センターの担当者の参加もある。今後は、サロンや老人会等、地域の方が集まるような場所に出向いて、「各事業所のサービスや役割を伝えて行きたい」と話していた。</p> | |
| 6 | 5 | <p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p> | <p>(自己評価) 内容を理解していない職員もいるため、今後勉強が必要と思われる。施設内で対象者はいないが、今後も拘束を行わない介護に努めていく。</p> <p>(外部評価) 玄関内側壁の上部に設置している電子ロックを職員が解除して、玄関を開けるようになっている。2階ユニットの利用者は、階段を使って1階ユニットに遊びに来るようなこともある。</p> | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|--|--|
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | (自己評価) 学ぶ機会は社内研修があり定期的に勉強を行っている。日々のケアの中でも入居者様優先の考え方で接している。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | (自己評価) 権利擁護という言葉に慣れない職員も多く見られ、後見制度も聞いたことがあるという職員が多くいた。知らない言葉が多くあることを実感している。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | (自己評価) 入居される前に契約書を説明と了解をいただく為にしっかりと時間をとり、理解していただいた上で契約書にサインをもらっている。 | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | (自己評価) 家族様の意見はいただいた時からできるだけ早く各職員へ反映している。入居者様の希望も同様に認知症だからと流さず1つ1つ答えるようにしている。 | |
| | | | (外部評価) 管理者がご家族とのやりとりの窓口になっている。運営推進会議の後に、ご家族に集まってもらって「家族会」を行っている。ご家族から、「分かりやすい便になるよう工夫してほしい」と要望があった際には、個別に毎月作成している便りの近況報告欄に、より具体的な暮らしの様子を書くようにした。事務所前の掲示板には、当日勤務する職員の名札を掛けている。 | ご家族の立場や心情を踏まえて、ご家族が意見や要望を出しやすくなるような工夫を重ねてほしい。ご家族と一緒に活動するような場面を作る等、具体的に事業所サービスを知ってもらえるよう取り組んではどうだろうか。 |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|--------------------------|------|--|---|-------------------------------|
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | (自己評価) 月に1度の職員ミーティングで運営側の報告を行い、職員からの意見も聞き取り業務や運営へ反映できるよう検討している。 | |
| | | | (外部評価) 管理者が職員と面談して意見等を聞くように取り組んでいる。職員は、昼食時から順番に休憩時間を取っており、職員同士でおしゃべりして関係を作ったり、ケア等について先輩職員に相談する等している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | (自己評価) 職員の面談を定期的に行いコミュニケーションを取ることで仕事のやりがいや不安、改善点などを話している。 | |
| | | | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | (自己評価) 社内研修や社外の研修を通知、参加をしてもらいスキルアップへつなげてもらっている。 | |
| | | | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | (自己評価) 同地区の他事業所と連携を図り、1つの事業所会を作りネットワーク作りを行っている。 | |
| | | | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | (自己評価) 契約前には必ず事前の面談を行い本人様の状況や取り巻く環境を確認している。入居してから不安にならないように準備や情報の共有など行っている。 | |
| | | | | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | (自己評価) | |
| | | | 事前の面談時や契約時、家族様より聞き取りを行い要望や課題をケアプランとして反映している。 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | (自己評価) | |
| | | | 面談の際に、注意深く聞き取りをして求めている支援を感じ取るよう心掛けている。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | (自己評価) | |
| | | | 日常生活の中でできること(洗い物や洗濯等)を行ってもらい役割を感じてもらっている。 | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | (自己評価) | |
| | | | 家族様との関係性を良好に保てるようお会いした時はコミュニケーションを取るよう心掛けている。その中で本人様への課題や施設への要望を聞き取れるようにしている。 | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | (自己評価) | |
| | | | 家族や親族の方との関係性や面会時にゆっくりと会話ができるよう配慮している。 なじみの場所は行ける範囲と要望に応えられる程度で対応している。 | |
| | | | (外部評価) | |
| | | | 職員は、利用者の友人から電話があれば取り次いだり、親戚の方が訪ねてきた時には対応している。レクリエーションを行う時には、楽しく行えるように、会話がはずむ方同士でテーブルを囲めるようにしている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------------|------|---|---|---|
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | (自己評価) 大小トラブルの際には中立の立場でお互いのプライドを傷つけないように努めている。 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | (自己評価) 現在終了となっている方はいません。 | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | (自己評価) 日々の生活の中で要望や希望に添えるような支援を行っている。困難な場合には代案を検討している。 (外部評価) 入居時にご家族から聞き取った情報をフェースシートに記入している。ライフサイクル表には、時系列で食事や入浴等、利用者が行ったことを書くようにしており、1週間の生活の流れについて一目で分かるようにしている。支援内容は、介護記録に記入するようになっている。 | さらに、利用者の生活歴や現在、今後の暮らし方の希望等についての情報を蓄積して、利用者主体の支援が実践できるように介護計画につなげてほしい。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | (自己評価) 入居前の情報の確認や本人との会話で得られる情報で把握に努めている。家族様との面会時にも過去の話聞き情報を得ている。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | (自己評価) 1日のライフサイクル表を記録しその人一人ひとりを知ることから始めるようにしている。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 26 | 10 | <p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p> | <p>(自己評価)</p> <p>介護計画に基づいたモニタリングで現状を日々確認している。定期的に話し合いを行い適切なケアが行われるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>管理者が介護、看護職員と担当者会議を開き、課題を検討して6ヶ月ごとに介護計画を作成している。ご家族には事前に利用者の暮らしやケアについて要望を聞いている。ご家族から「車いすを利用しているが、歩行できるよう支援してほしい」と希望があり、歩行練習することを計画に挙げる場合もある。現在は、骨折等、利用者の状態変化時の見直しは遅れがちになっているが、今後は、現状に即した計画作成に取り組み、職員間で計画を共有して実践する仕組みを作り、利用者の生活の質向上に取り組んでほしい。</p> | |
| 27 | | <p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p> | <p>(自己評価)</p> <p>介護記録の記載されている情報は各自目を通し把握し全体が共有できるように申し送りなどで伝わるようにしている。</p> | |
| 28 | | <p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p> | <p>(自己評価)</p> <p>認知症介護施設の枠からは出ていないと感じる。既存サービス以外での取り組みはまだできていない。</p> | |
| 29 | | <p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p> | <p>(自己評価)</p> <p>地域資源の活用はほぼできていない。</p> | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | (自己評価) 協力医療機関があり、ご家族の了解を得て医療を開始するようにしている。 | |
| | | | (外部評価) 入居時に、往診可能な協力医療機関に変更するようなケースもある。以前からのかかりつけ医を受診する方には、管理者は同行して支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | (自己評価) 介護職員は入居者の状態変化を看護師へ伝え必要ならば管理者へ相談の元と家族への相談、医療の要請を行っている。 | |
| | | | (外部評価) 入院した入居者はまだおられない。 | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | (自己評価) 入院した入居者はまだおられない。 | |
| | | | (外部評価) 重度化した場合の方針や看取りの指針を作成しており契約時には概要を説明している。現在はまだ看取り等行っていないが、必要時には改めて説明を行い了解を書面にて得るようにしている。その際は医療との連携も欠かさない。 | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | (自己評価) 重度化した場合の方針や看取りの指針を作成しており契約時には概要を説明している。現在はまだ看取り等行っていないが、必要時には改めて説明を行い了解を書面にて得るようにしている。その際は医療との連携も欠かさない。 | |
| | | | (外部評価) 利用契約時に「看取り介護に関する指針」をもとに大まかに説明しており、重度化した場合や看取り支援についても対応することを話している。現在は、利用者やご家族等から看取り支援の希望は出ていないようだ。事業所には重度の利用者も対応できるように特殊浴槽を設置している。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-------------------------------|------|--|---|-------------------------------|
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | (自己評価) 施設に設置しているAEDの使用方法や心臓マッサージの講習は施設内で行ったが、全職員が習っているわけではなく応急処置などは訓練を行っていない。 | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | (自己評価) 半年に1度の避難訓練を行っており災害時の対策を行っている。地域住民の参加はまだない。 | |
| | | | (外部評価) 8月には、消防署の協力を得て職員、利用者で避難訓練を実施した。消火器の使い方も習った。管理者は、伊台地区防災会議に参加して、地域の自主防災についての情報を得ている。地域の内覧会の際には事業所にAEDを設置していることを説明した。管理者は今後、運営推進会議と避難訓練を併せて行い、地域の方やご家族と一緒に夜間の火災想定で訓練を実施したいと話していた。 | |
| .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | (自己評価) その人に合わせた声の掛けた方で気分を害さない言葉使いに努めている。 | |
| | | | (外部評価) 管理者は職員に、利用者に強制をしないよう話している。人形を娘と思っている利用者には、職員も利用者と同じようにして、対応している。調査訪問時、体調が優れない利用者があり、着替えの際痛みを訴えるようで、日中寝間着で過ごしているような方が見られた。利用者の意欲や自信につながるような職員のかかわり方について、個々にスキルアップできるような取り組みをすすめてほしい。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | (自己評価) 選択するのは入居者で支援する側でないことは念頭におき、希望や要望を言いやすい声掛けをしている。時々、せかすような言い方をしてしまうことがある。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|--|
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価) 1日の時間の使い方は自由にしてもらい(食事や入浴の時間はある程度決まっている)窮屈な生活だと感じない様に見守っている。 | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | (自己評価) 外出時など身だしなみを整えるよう声掛けや支援をしている。 | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | (自己評価) 食事の時間を楽しめるよう雑談など行い、入居者にもよるが後片付けをしてくださる方にはお願いして行ってもらっている。 | 利用者一人ひとりが食事を楽しめるように工夫できることはないか、職員で話し合う機会を作ってほしい。利用者個々の食事のこだわりや好み、習慣等を知ること努め、支援に採り入れてはどうだろうか。 |
| | | | (外部評価) 業者から決まったメニューでおかずや食材が届くようになっており、早出勤員が昼食を作る等、調理担当を決めている。職員も利用者と同じものを一緒に食べ、順番に別の部屋で休憩を取るようになってい。ミキサー食の食事を自助具を使ってご自分で食べる利用者には、職員が隣りで食事しながら見守ったりサポートをしていた。ユニットによっては利用者が下膳等している様子が見られた。利用者の誕生日には、主食をちらし寿司に替えてお祝いしている。お正月には個々にお重を用意して、お正月気分を味わう予定になっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | (自己評価) 食事量や水分量の確認は毎日行い、適切な栄養が摂取できているか観察している。 | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | (自己評価) 毎食後の口腔ケアは必ず行い口腔衛生に気を付けている。ご自分でできる方には見守りしつつ行ってもらっている。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | (自己評価) | |
| | | | 排泄のパターンを把握しトイレ誘導の声掛けをしている。表情や行動をよく観察し読み取れるよう努めている。 | |
| | | | (外部評価) | |
| | | | 排泄が自立している利用者も多く、職員は利用者のトイレ使用後にトイレ内を点検して状態を探ることに努めている。さらに、居室に置いている排泄用品の扱いについて、職員で配慮できることはないか話し合っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | (自己評価) | |
| | | | 水分量の確認と排便間隔を記録把握し、適度な運動で便秘になりにくい体調となるよう取り組んでいる。 | |
| | | | (外部評価) | |
| | | | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている | (自己評価) | |
| | | | 各個人のタイミングで入浴することはできていない。声掛けし了解を得られれば入浴してもらっている。拒否がある際は無理強いしない。 | |
| | | | (外部評価) | |
| | | | 各ユニットには一般家庭用浴槽が設置されている浴室があり、1階ユニットには別に特殊浴槽の浴室がある。週に2~3回入浴できるよう支援している。家族から入浴回数希望がある場合は応じている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | (自己評価) | |
| | | | 日中の時間でも適度に休める時間を提供している。シーツ交換や室内の清掃も定期的に行い衛生管理を行っている。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | (自己評価) 各入居者様の内服薬をすべて把握してはいない。個人ファイルに載っている情報を職員が確認し服薬していただいている。 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | (自己評価) 掃除や片付け、食器洗いを役割としてする方がおられできることをお願いしている。 | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | (自己評価) 叶えられる要望にはできる限りその時に対応している。 | |
| | | | (外部評価) 毎月外出の予定を立てて、菊花展を見に行ったり、お寺参りに出かけたりしている。又、ユニットによっては、大型スーパーに出かけてフードコートでおやつを食べて帰るようなこともある。この一年間、利用者が生まれ育った場所に複数の利用者で出かけてみることに力を入れて取り組んだ。利用者は喜ばれて、「こんなに変わったのか」と感想を話し、以前の様子等についても話してくれたようだ。さらに、日頃の散歩等から、近くにちょっと出かけて過ごせるような場所を見つけてはどうだろうか。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | (自己評価) 金品は施設の金庫でお預かりしている。週に1回移動スーパーがくるので可能な方はご自分で買い物と静観もしている。 | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | (自己評価) 希望があれば電話を掛けて家族や友人と話をできるようにしている。 | |

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|---|
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価) 環境整備は常に行っており、衛生管理を行っている。 共用スペースや個人の居室も季節を感じたり、本人様の気に入ったものを置くなど居心地よくなるように配慮している。 | 利用者が主体的に生活できるような共用空間の環境づくりに工夫してほしい。活動意欲を触発させるような物品や雰囲気作り、生活感や季節感を感じられるような取り組みに工夫してほしい。利用者の以前の暮らし等を探ってみてはどうだろうか。 |
| | | | (外部評価) 玄関にはプランターにパンジー等を植えて飾っている。室内には各所にクリスマスの飾り付けがなされている。ユニットごとに建具の色を替えており、それぞれ雰囲気に違いがある。窓から、山の様子やお天気がうかがえ、調査訪問時には利用者が職員に「今日は曇っていて雨が降りそうやね」と話していた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | (自己評価) すでにある程度固定の座席が決まっているが、1人である際にはTVを観たり自由に過ごしてもらっている。 | |
| | | | (外部評価) | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価) 自宅から使い慣れた物を持ち込んでもらい少しでも施設の環境に慣れていただけるよう努めている。 身体状況によっては、トイレなど必要な物品も用意している。 | |
| | | | (外部評価) ベッド・クローゼット・エアコンが備え付けてある。居室の環境整備とご家族への便りの近況報告文章作成は、利用者個々に担当職員を配置している。体調が優れず居室で食事する方には、職員も利用者の方と一緒に食事をして支援している。時には、仲良しの他利用者が居室を訪れ、おしゃべりしたり、「早よ良くなりなさいよ」と言葉をかけられるようだ。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | (自己評価) できることはご自分でしていただき、過剰な介護とならないよう意識している。 | |
| | | | (外部評価) | |